

第3部 都市づくりの基本理念

- I めざす都市像とまちづくりの基本目標
- II 基本政策
- III 都市づくりの基本方針
- IV 都市構造

I めざす都市像とまちづくりの基本目標

- ・都市づくりの基本理念とは、長期にわたり普遍性を持ち、将来に向けた都市づくりにあたり、地域の力を結集して取り組むために共有する根本となる考え方です。
- ・都市計画マスタープランでは、川崎市基本構想・基本計画（平成27（2015）年12月議決）に掲げられた「めざす都市像」、「まちづくりの基本目標」、「基本政策」に即して、本市における都市づくりの基本理念を定めます。

1 めざす都市像

成長と成熟の調和による

持続可能な最幸※のまち かわさき

※「最幸」とは・・・川崎を幸せのあふれる「最も幸福なまち」にしていきたいという思いを込めて使用しています。

2 まちづくりの基本目標

「安心のふるさとづくり」「力強い産業都市づくり」

これは、「子どもたちの笑顔があふれ、高齢者や障害者等、誰もが社会に貢献しながら生きがいを持つことができ、産業都市として力強く発展し続ける、そのような成長と成熟が調和し、誰もが幸せを感じられる川崎をめざし、「安心のふるさとづくり（成熟）」と「力強い産業都市づくり（成長）」の調和により、市政をバランスよく進める。」という考え方を示したものです。

II 基本政策

- ・まちづくりの基本目標を達成する基本政策は次のとおりとします。

- （1）生命を守り生き生きと暮らすことができるまちづくり
- （2）子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり
- （3）市民生活を豊かにする環境づくり
- （4）活力と魅力あふれる力強い都市づくり
- （5）誰もが生きがいを持てる市民自治の地域づくり

III 都市づくりの基本方針

- 基本政策を踏まえ、都市づくりの方向性を体系的にわかりやすく示すため、「都市づくりの基本方針」を定めます。

(1) 魅力ある都市づくり

- 近隣都市拠点との適切な連携のもとで、それぞれの地域特性を活かし、魅力にあふれる広域的な拠点整備を推進するとともに、地域のニーズに的確に対応し、地域生活拠点や交通利便性の高い身近な駅周辺などを中心とした身近な地域が連携した魅力あるまちづくりを推進します。
- これらのまちづくりを支える効率的・効果的な交通体系の構築や良好な景観づくりの推進などにより、魅力ある都市づくりをめざします。

(2) 誰もが暮らしやすい都市・住まいづくり

- 超高齢社会にあっても、高齢者、障害者、子育て世帯など、誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で、安心してすこやかに生き生きと快適に暮らせる都市・住まいづくりをめざします。

(3) 緑と水の豊かな環境に配慮した都市づくり

- 市民、事業者などと協働しながら、地球や地域の環境保全を進め、健康で快適に暮らし続けることができる都市づくりをめざします。
- 多摩川や多摩丘陵の自然をはじめ公園や農地など、生活にうるおいとやすらぎをもたらす市民共有の貴重な財産である緑を次世代に継承するなど、人と自然が共生する都市づくりをめざします。

(4) 産業の発展を支える都市づくり

- 我が国が直面している少子高齢化やエネルギー政策の転換、地球温暖化などの課題を、高度先端技術やICT等の活用により、医療・福祉、エネルギーなどの新産業の創出に結びつけることをめざします。
- さらに、成長を続けるアジアをはじめ、世界と競いながら、付加価値の高い、活力ある産業の集積等を促進することなどで、国際的な課題解決に貢献する、環境と調和した持続可能な産業の発展を支える都市づくりをめざします。

(5) 災害に強い都市づくり

- 誰もが安心して暮らせるよう、市民の身近な安全や生活基盤の確保に取り組むとともに、都市全体の安全性の向上を図り、大規模災害にも耐えられる災害に強い都市づくりをめざします。

(6) 市民が主体となる身近な地域づくり

- 市民と行政の「情報共有」「参加」「協働」を基本としながら、市民が主体となって、地域の身近な課題解決を促進するとともに、支え合いながら個性と能力を発揮することができる地域づくりをめざします。

(7) 人口減少を見据えた持続可能で効率的な都市づくり

- 将来的な人口減少を見据えて、交通利便性が高い拠点地区等への都市機能の集積や多様な世代が居住できる環境整備及び人口減少や高齢化の進行する地区におけるファミリー世帯等の居住や多様な住まい方の誘導等を促進するとともに、公共交通を主体とした駅等へのアクセス向上を図り、持続可能で効率的な都市づくりをめざします。

IV 都市構造

- ・都市構造とは、都市の特徴や骨格を空間的かつ概念的に表した都市の全体像のことです。
- ・本マスタープランでは、「交通網」、「市民の行動圏」、「拠点地区」、「緑と水の骨格」により、都市構造を示します。

1 都市構造の現状

(1) 交通網

① 鉄道

- ・本市では、東急田園都市線・東横線や小田急小田原線などの市内を横断する東京都心から放射状に広がる鉄道路線と、J R南武線や京急大師線などの市内や地域を縦断し、放射状の鉄道路線と交差や連結する鉄道路線があり、これらによる鉄道網が形成されています。

■主な鉄道路線



② 道路

- ・本市では、東京・横浜間を結び市域を横断する主要な道路として高速道路や国道などが多い状況であり、また、国道409号（川崎府中線）や尻手黒川線などが市域を南北に縦断し、これらの幹線道路による道路網が形成されています。

■主な幹線道路



(2) 市民の行動圏

① 生活行動圏

- ・南北に長い本市の地理的な特徴、広域的に展開する市民の行動や産業経済活動、交通網の整備状況、地域の特性などから、市民の日常的な生活エリアである「生活行動圏」は、鉄道沿線を中心に展開しており、川崎駅・臨海部周辺エリア、川崎・小杉駅周辺エリア、中部エリア、北部エリアの概ね4つに大別することができます。

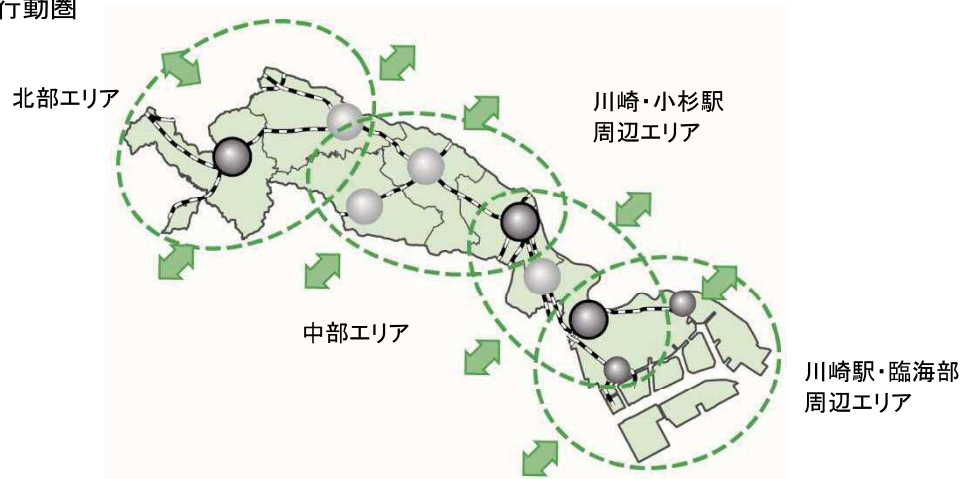
② 地域生活ゾーン

- ・ターミナル駅などを中心に「地域生活ゾーン」が展開しており、概ね行政区と同一の広がりとなっています。

③ 地区コミュニティゾーン

- ・地域における身近なまちづくりの基礎的な単位として、町内会や自治会、市民団体などの一定の活動範囲となる「地区コミュニティゾーン」が展開しています。

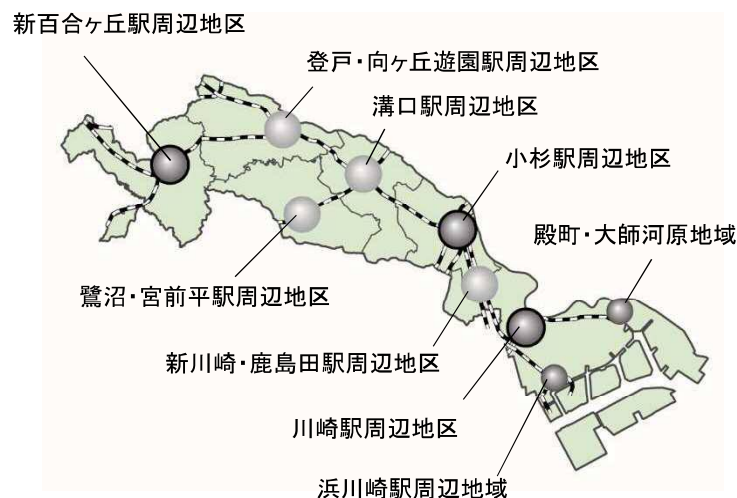
■生活行動圏



(3) 拠点地区

- ・本市の特性である鉄道利便性の高さを活かしたこれまでの取組により、主要なターミナル駅を中心に多様な都市機能の集積や交通利便性の高い地区が形成されています。

■拠点地区位置図



(4) 緑と水の骨格

- ・市域の北西部には、広域的な樹林地や農地が広がっています。また、市内には多摩川を代表とする河川や大規模な公園・緑地など、市域の骨格を形成する貴重な環境資源があります。

① 多摩丘陵

- ・市域の北西部に位置する多摩丘陵では、麻生区黒川や岡上、早野などの地域や多摩川崖線に沿った地域などに広域的な広がりを持つ樹林地が形成されています。

② 多摩川

- ・市域の北側に沿って、本市の骨格を形成する多摩川が位置しており、水と緑による河川空間が形成されています。

③ 大規模な公園・緑地等

- ・市域には、富士見公園や等々力緑地、生田緑地などの大規模な公園・緑地や東扇島地区などの港湾緑地が配置されています。

④ 農業振興地域

- ・本市の北西部における麻生区黒川、岡上、早野の農業振興地域には、まとまりのある樹林地や優良な農地が広がり、里地里山の風景が形成されています。

2 めざす都市構造

(1) 広域調和・地域連携型のまちをめざします

- ・近隣都市と適切に役割を分担しながら、広域的視点を踏まえた各拠点の魅力の創出をめざす「広域調和型のまちづくり」と、市内各地域の自立と連携をめざす「地域連携型のまちづくり」をバランスよく進める「広域調和・地域連携型」の都市構造をめざします。

(2) 魅力にあふれ、個性ある都市拠点の形成をめざします

① 広域拠点の整備

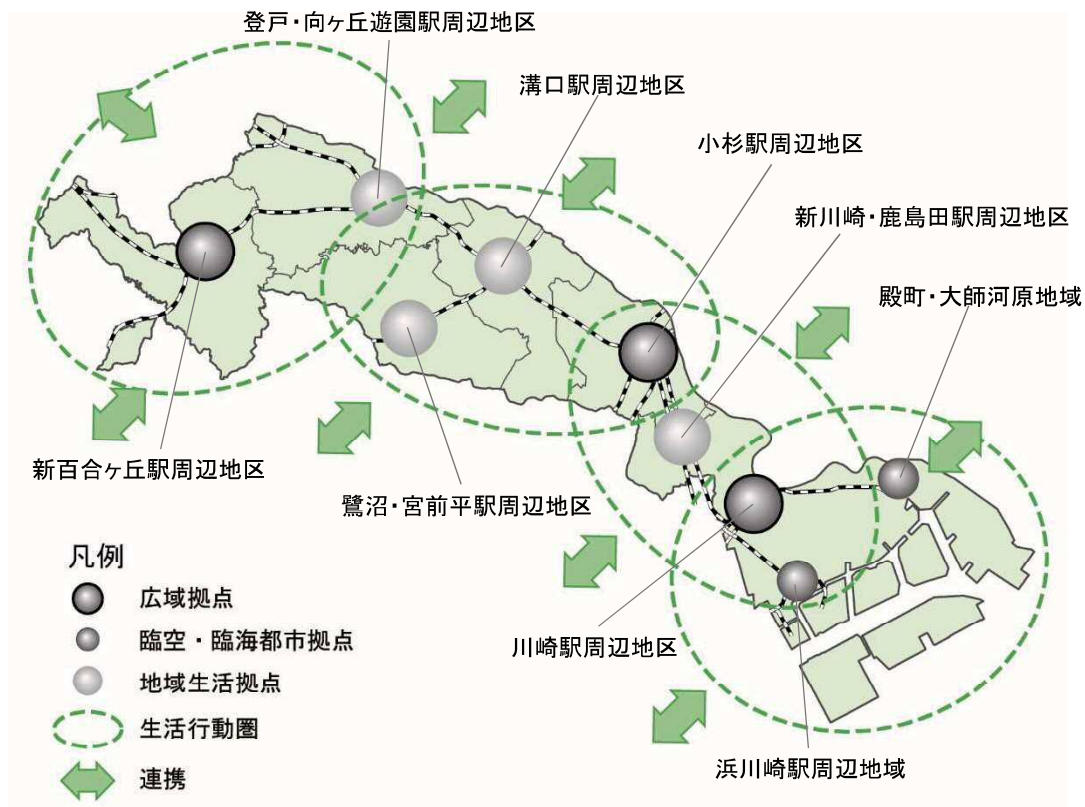
- ・グローバル化が急速に進展する中で首都圏の好位置に立地し、鉄道や道路などの恵まれた都市基盤を有する本市の強みを最大限に活かすとともに、時代の変化に応じた都市機能の集積や更新を進め、魅力にあふれた広域拠点の形成をめざします。
- ・生活行動圏を踏まえ、近隣都市と適切に役割を分担しながら、個性と魅力ある都市の形成をめざすため、「川崎駅周辺地区」、「小杉駅周辺地区」、「新百合ヶ丘駅周辺地区」を広域拠点に位置づけます。

② 臨空・臨海都市拠点の整備

- ・臨海部では、首都圏における地理的優位性や羽田空港との近接性、川崎港を通じた海外とのつながりなどの優れたポテンシャルを活かし、既存産業の高度化・高付加価値化や、研究開発機能、環境・ライフサイエンス分野など先端産業の集積・創出、陸海空の交通結節機能を活かした物流拠点形成、これまで培った環境技術を活かした国際貢献、また、土地利用の誘導やこれらを支える都市基盤整備を進め、我が国の経済を牽引する活力ある臨空・臨海都市拠点の形成をめざします。
- ・臨海部の持続的発展を推進するため、「殿町・大師河原地域」、「浜川崎駅周辺地域」を臨空・臨海都市拠点に位置づけます。

③地域生活拠点の整備

- ・商業・業務、都市型住宅等の機能の集積を図るとともに、都市基盤等の整備を進め、安全で快適な利便性の高い都市機能がコンパクトに集約し、それぞれの地域特性や個性を活かす地域生活拠点の形成をめざします。
- ・地域生活ゾーンの自立と地域の連携の強化等を推進するため、「新川崎・鹿島田駅周辺地区」、「溝口駅周辺地区」、「鷺沼・宮前平駅周辺地区」、「登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区」を地域生活拠点に位置づけます。



第1部

改定の趣旨等

第2部

まちの現状・課題

第3部

都市づくりの基本理念

第4部

分野別の基本方針

第5部

生活行動圏別の
沿線まちづくりの考え方

第6部

計画の実現・推進方策

(3) 生活行動圏の身近な地域が連携した

住みやすく暮らしやすいまちをめざします

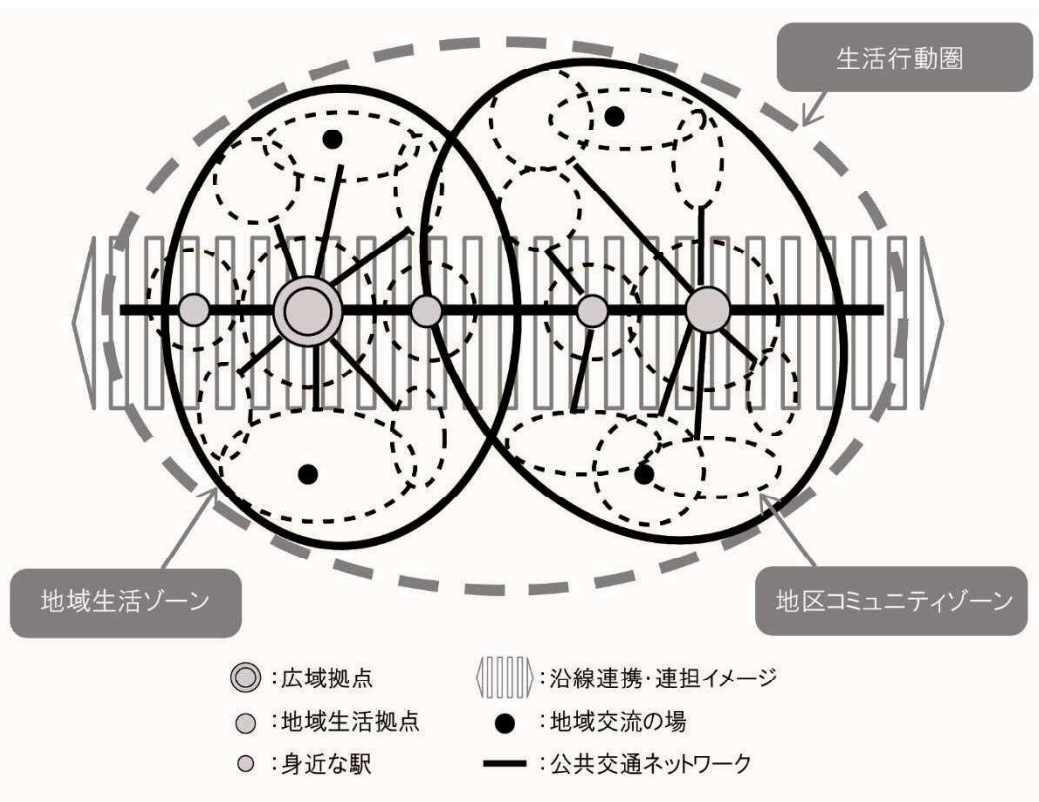
① 拠点駅と身近な地域が連携したまちづくり

- 生活行動圏のエリアごとに、広域拠点の整備による波及効果を、身近な地域に効率的かつ効果的に広げ、鉄道を主軸にした都市の一体性と都市機能の向上を図ります。

② 身近な駅周辺と身近な地域が連携したまちづくり

- 広域拠点や地域生活拠点以外の交通利便性が高い身近な駅周辺では、鉄道を主軸に沿線の拠点地区と都市機能を連携・分担し、地域の特性や課題に応じた生活利便性の向上をめざし、地域住民の暮らしを支えるまちづくりを推進します。
- 住みやすく暮らしやすいまちづくりに向け、「地区コミュニティゾーン」が相互につながり、機能的に連携する地域に密着した身近なまちづくりを進めます。

■ 身近な地域連携の概念イメージ図



(4) 広域調和・地域連携のまちを支える

交通ネットワークの形成をめざします

①交通ネットワークの形成

- ・首都圏の都市構造や経済活動を支えるとともに、魅力や活力の向上に寄与する広域調和・地域連携型の都市構造の骨格となる交通ネットワークの形成を図ります。
- ・公共交通の利用促進に向けた交通体系の構築を図り、環境に配慮した持続可能な交通環境の形成をめざします。
- ・誰もが安全、安心、快適に移動できる交通環境の形成をめざします。

②交通体系の骨格

ア. 広域的な交通網

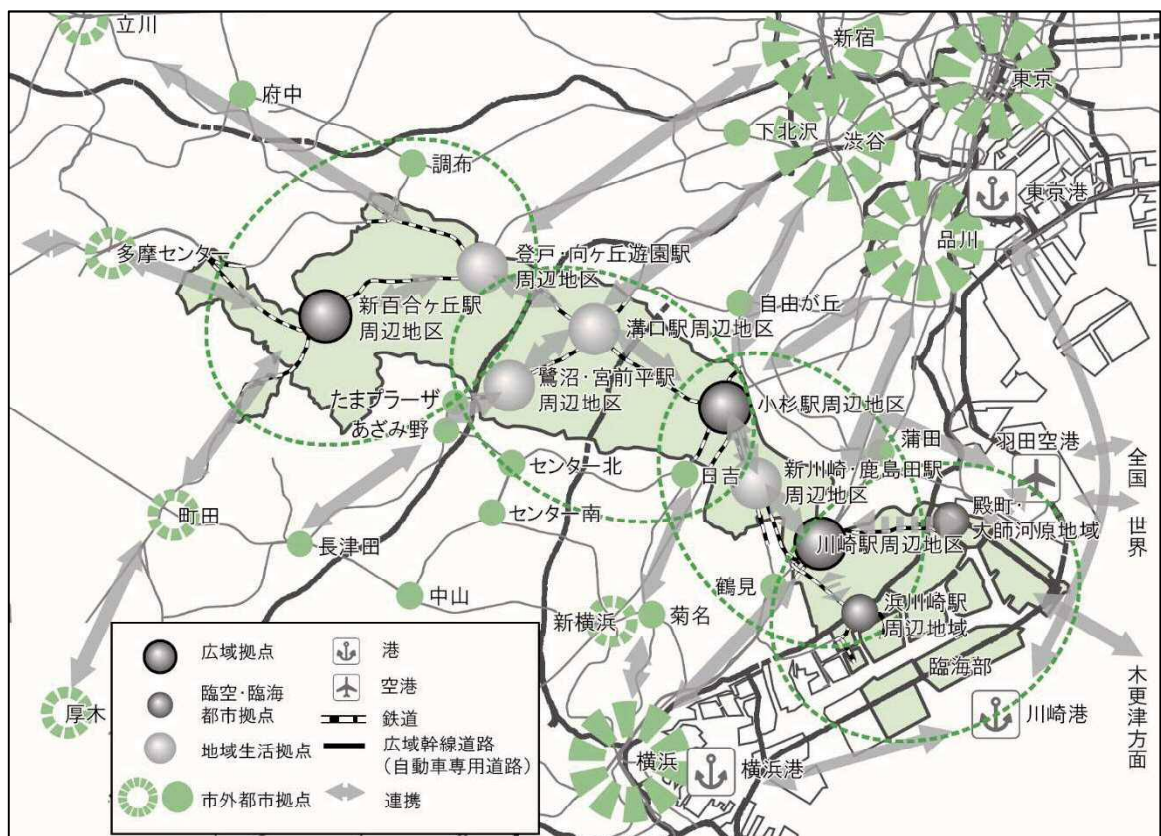
- ・首都圏の放射・環状方向の広域的な鉄道・道路網を最大限に活かしなが、市内外の拠点間の連携を推進する交通機能の強化や首都圏にふさわしい交通網の形成をめざします。
- ・本市の新たな飛躍に向けた拠点形成や首都圏機能の強化を図るため、国際化が進む羽田空港へのアクセスの強化などをめざします。

イ. 市域の交通網

- ・市域の骨格を形成し、生活行動圏における身近な地域間の連携を促進するとともに、安全快適な市民生活や効率的な都市活動を支えるため、広域的な鉄道・道路網と一体となったまちづくりや地域交通を支える機能的な市域の交通網の形成をめざします。

ウ. 身近な地域交通環境

- ・超高齢社会の到来を見据えて、居住地と身近な駅や拠点地区を結ぶ身近な交通の一層の充実を図るため、誰もが安全、安心、快適に移動できる地域交通ネットワークの形成をめざします。
- ・地域の特性やニーズに応じた取組を推進し、持続可能な地域交通ネットワークの形成をめざします。



(5) 多摩丘陵の緑地と多摩川・鶴見川水系を骨格にした、 緑と水のネットワークを育みます

① 緑と水のネットワークの形成

- ・多摩丘陵などの「みどり軸」や大規模公園等の「みどり拠点」を事業所の緑、住宅地の緑、街路樹、河川・水路などでつなぐことにより、緑と水のネットワークの形成をめざします。

② 緑と水の骨格

ア. 多摩丘陵

- ・多摩丘陵の広域的な広がりの中で、麻生区黒川、岡上、早野の「緑と農の3大拠点」をつなぐ樹林地を「多摩丘陵軸」して、多摩川崖線の樹林地を「多摩川崖線軸」として位置づけ、緑地保全に関わる様々な制度を活用するとともに、近隣自治体等と連携し、その保全に努めます。

イ. 多摩川・鶴見川水系

- ・本市の骨格を形成する多摩川を「多摩川軸」として位置づけるとともに、二ヶ領用水を始めとした支川や鶴見川流域に広がる水辺空間についても、暮らしの中に息づく水と文化を伝え、潤いのある街なみを形成する大切な環境資源として、その保全・再生等に努めます。

ウ. 大規模公園緑地

- ・地域の核となる富士見公園等の大規模公園や等々力緑地、生田緑地等の緑地、比較的大規模な住区基幹公園、特別緑地保全地区などの多彩な機能を高め、安全で快適な暮らしを支える緑のまちづくりの推進に努めます。

エ. 緑と農の3大拠点

- ・市街化調整区域において農業振興地域となっている麻生区黒川、岡上、早野は、ままとりのある樹林地や優良な農地が残され、良好な里地・里山景観がみられることから、「緑と農の3大拠点」として位置づけ、その保全や振興に努めます。

(6) コンパクトで効率的なまちをめざします

- ・少子高齢化の進行による社会的要請や今後の人口減少を見据えた地域課題に効果的に対応するとともに、地球環境に配慮した都市の形成を推進するため、コンパクトで効率的なまちをめざします。

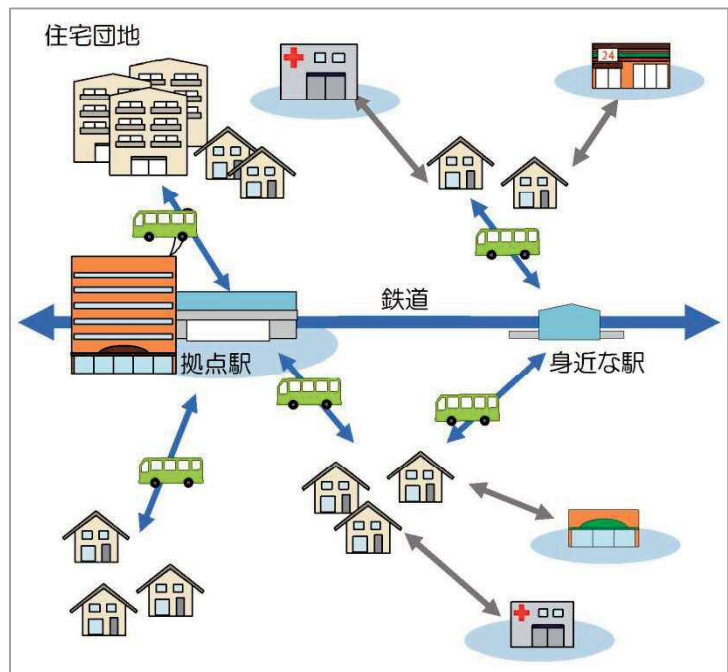
①駅周辺における取組

- ・公共公益施設の建替えや大規模な土地利用転換の契機を捉え、交通利便性の高い駅周辺地区等においては、公共公益施設の集約や多様なニーズに対応した都市機能の誘導を図るとともに、路線バスなどの公共交通による駅へのアクセス向上に向けた取組を推進します。

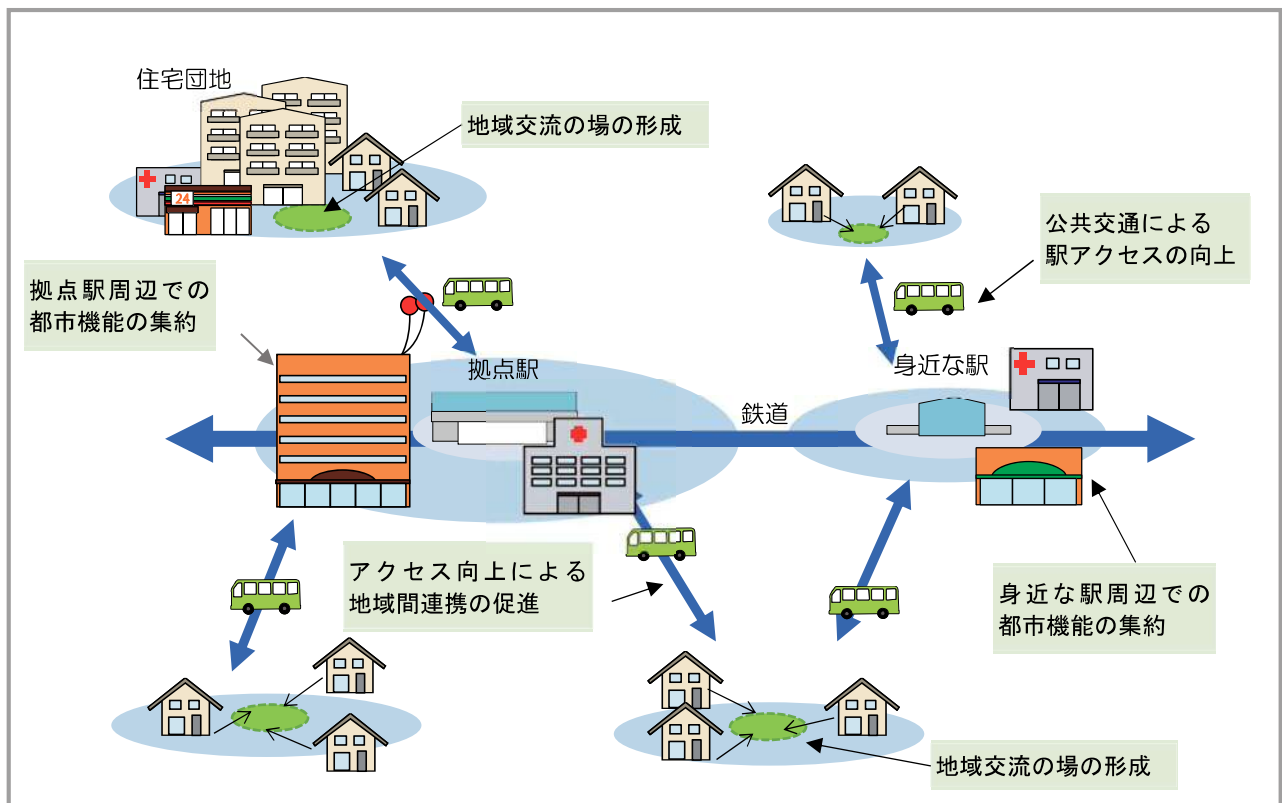
②郊外部における取組

- ・郊外部においては、地域交流の場の形成や多世代が交流できる住環境の整備を推進するとともに、人口減少や高齢化が進行する地区については、住み替えや空き家の活用等により、多世代の居住を促進し、一定の人口密度を維持しながら、効率性の低下を防ぎます。

■都市機能が分散しているまちのイメージ図



■コンパクトなまちづくりのイメージ図



都市構造図



— 方針 —

- 広域拠点 (Regional Hub)
- 臨空・臨海都市拠点 (Airport/Coastal Urban Hub)
- 地域生活拠点 (Local Life Hub)
- 大規模公園緑地 (Large-scale Park Green Space)
- 緑と農の3大拠点 (Green and Agriculture 3 Major Hubs)
- 多摩丘陵軸 (Tama Ridge Axis)
- 多摩川崖線軸 (Tama River Cliff Line Axis)
- 多摩川軸 (Tama River Axis)
- 生活行動圏 (Life Action Circle)
- 連携 (Cooperation)
- 広域幹線道路(高速道路) (Regional Expressway)
- 主な幹線道路(一般道路) (Main Expressway (General Road))

— 基本凡例 —

- 駅 鉄道(市内) (Station Railway (City))
- 鉄道(市外) (Railway (Outside City))